

Daily Report (号外)

～7月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が8月7日に発表した7月の雇用統計は、市場予想を上回る改善となりました。非農業部門雇用者数は、前月比+176.3万人と、市場予想(+148万人)を上回る結果となりました。また、前月分は+479.1万人(速報値+480万人)に下方修正されました。7月は全米各地での経済活動再開に伴う飲食・宿泊店の営業開始を受け、業種別では娯楽・接客業が前月比+59.2万人(前月同+198.1万人)となり、サービス部門での雇用増加分の4割超を占めたほか、小売業も+25.8万人(前月同+82.7万人)となりました。また、失業率は10.2%と前月の11.1%から低下し、市場予想(10.6%)を上回る結果となりました。平均時給は前月比+0.2%(市場予想▲0.5%)と上昇しました。

市場の反応

7日の米国株式市場は上昇しました。NYダウは米中対立の深まりが懸念され、売り先行で始まったものの、市場予想を上回る改善を示した米雇用統計を背景に緩やかな景気回復期待が広がったことで、前日比+0.2%と小幅上昇しました。

その他の米国主要指数(S&P500が前日比+0.1%、ナスダック総合指数が前日比▲0.9%)はまちまちな動きとなりました。

米国債券市場は、米雇用統計での市場予想を上回る改善を受けて売りが先行したものの、追加の経済対策協議が難航していることで景気回復遅れの見方が強まり、10年国債利回りは前日+0.03%の0.56%で引けました。

米ドル/円は、米雇用統計の結果から雇用回復の停滞懸念が和らぎ、前日比+0.4円の円安・ドル高で取引を終えました。

原油先物市場は、前日に約5か月ぶりの高値を付け、コロナ前の水準まで回復したことにより投資家の様子見姿勢が強まり、WTI先物9月限は前日比▲1.7%となりました。



(期間)2019/12/31～2020/8/7、(出所)Bloomberg

評価・今後の見通し

7月分の雇用統計は市場予想を上回る改善内容となりましたが、他の経済指標と合わせて考えると米国の雇用を除いては個人消費の先行きに楽観はできない状況です。

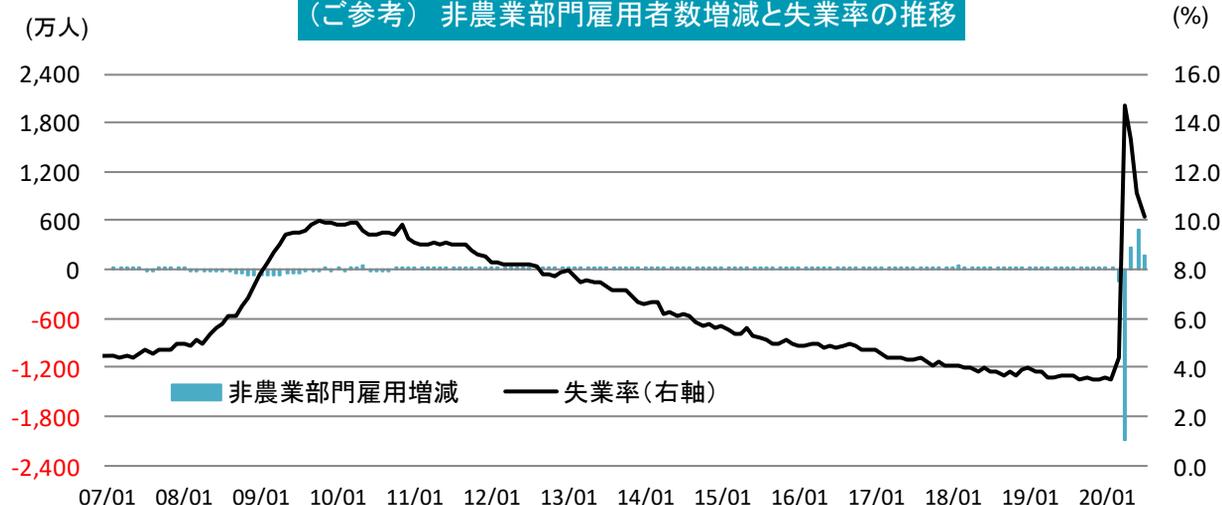
8月初に発表になった7月のISM景況感指数は、製造業、非製造業とも、ヘッドラインが大きく回復する中で、雇用については中立水準である50を下回る水準にとどまり、企業の雇用に対する厳しい見方が示されました。またコンファレンスボードが発表した7月の消費者信頼感指数は前月比で予想以上に下落するなど、消費者センチメントの回復も停滞しています。政府の手厚い対策により統計上は大きく回復している個人消費ですが、雇用情勢の改善を背景とした確りとした回復軌道に乗るにはもう少しばかり時間を要するものと思われます。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	20/2	20/3	20/4	20/5	20/6	20/7
非農業部門	25.1	-137.3	-2,078.7	272.5	479.1	176.3
鉱工業部門	5.6	-11.9	-238.8	67.6	51.5	3.9
建設業	4.6	-6.5	-101.8	45.6	16.3	2.0
製造業	0.8	-4.6	-131.7	24.0	35.7	2.6
資源・鉱業	0.2	-0.8	-5.3	-2.0	-0.5	-0.7
サービス部門	16.4	-123.7	-1,744.7	256.0	422.2	142.3
卸売業	-0.3	-1.2	-38.5	2.3	6.3	-0.5
小売業	0.3	-8.5	-229.9	38.6	82.7	25.8
輸送・倉庫業	0.0	-1.0	-56.0	-2.5	8.7	3.8
情報	0.0	-0.6	-27.9	-4.0	1.0	-1.5
金融	2.2	-1.8	-26.1	1.9	2.3	2.1
専門・ビジネスサービス業	2.7	-9.4	-220.2	16.0	31.8	17.0
人材派遣業	-0.6	-5.1	-84.1	4.7	14.4	14.4
教育・保険業	5.2	-17.8	-260.3	38.8	56.7	21.5
娯楽・接客業	5.9	-74.3	-757.5	140.5	198.1	59.2
その他	1.1	-3.9	-44.3	19.7	20.2	0.5
政府部門	3.1	-1.7	-95.2	-51.1	5.4	30.1
失業率(%)	3.5	4.4	14.7	13.3	11.1	10.2
平均時給(前年比、%)	3	3.4	8	6.6	4.9	4.8

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2007年1月~2020年7月 (出所)Bloomberg